

「主を待ち望む！！」

～あなたは誰に頼りますか？～

イザヤ40：26～31

■ 私たちの心の中に住む二つの種類

みなさんの中でお話が好きな人はいますか？私たちは話すことが大好きです。しかし、クリスチャンにとって大事なことはしゃべることよりも聞くことです。私たちは、相手が言うことが正しいとは分かってはいます。ですが、それを行うことがなかなかできません。クリスチャンはそのこととの戦いです。人生日々、「私はこうあるべきだ」という思いから、いつもその現実と戦わなければなりません。本当はやさしい言葉を語りなのに、良くない言葉を語ってしまうことがありますよね。本当はどちらかしかないのに両方をいつも持っています。多重人格なのでしょうか？神様はなぜ律法を作ったのでしょうか？本来、二重人格のあなたはいいのです。ところが私たちの心の中には、二つの種類の種類が住んでいるのです。「それを認めさせるため」だったのです。自分に問題があることに気が付くと私たちはどうなるのでしょうか？ほとんどの人は落ち込みます。「私はダメだ。できない。」イザヤ書40：26「つまづき倒れる。」このことにばに思いを覚えて聞いていただきたいのです。

■ みなさんの人生でつまづきはどんな時に起こるのでしょうか？

人間は生きています。85%以上、人の言葉からマイナスの否定的なメッセージを受けて生きています。しかし、私たちはそのマイナスの状況の中で生きていかなければなりません。どうやって自分を元気にさせ、生きていけば良いのでしょうか？「現実をみなくする自分」を作らなければいけません。なんとかして回復したいという思いは自分に向いてきます。クリスチャンもいつも、どうやって神様に受け入れられるか？どうやって正しいと言われるのか？立派なクリスチャンと言われるように頑張るのです。クリスチャンではない人も、「どうやって。どうやって。」と自分に鞭を打って働きます。聖書に出てくる、神に愛された人はそうではありません。単純なことをした人です。

■ あなたは誰に頼りますか？

ほとんどの人は「神様」と言います。ところが現実には「自分」に頼っているのです。失敗すると自分を責めませんか？自分に頼っている証拠です。上手くいかないと自分を怒りませんか？そしてその自分に向けての思いが大きければ大きいほどその思いは人に向いて行ってしまいます。「責任転嫁」です。アダムとイブはどうでしたか？本当は悪いと分かっているのに言ってしまったのです。「俺は悪くない！」そしてその後「やっちゃった。。。」

■ 私たちの心の中に聖書がなぜ律法を書いたのでしょうか？

「あなたにそういう要素があることを伝えたかったのです。」別にあなたを裁きたかったのではないのです。アダムとイブの子孫である私たちは「何でも人のせい」です。「私は悪くない」「散々な目に遭ったい加減にしてほしい」と思うしまうのです。しかし、そのようなあなたの心に「あなたにも間違いがあるんじゃないの？」ということ伝えてたくて神様はわざわざ聖書全体の7割以上を通して「人間がどれだけろくでもないか」を伝えているのです。これを読んでまだ、「自分は正しい」と言える人がいるのでしょうか？聖書で伝えたいことは何ですか？「義人はいない。一人もいない」それだけ伝えたいだけです。それでは「義」とは何でしょう？漢字のごとく我の上に羊を置いた人の人生です。義人というのはイエス様を上に乗ることではかなざれないのです。イザヤという予言者が神様の前に人がどのように歩むべきか、そして、イエスキリストが来られてローマ人に対して、また、ユダヤ人に対して、神様を待ち望んでいた民がイエス様が来られて彼を見て受け入れられなくて十字架に架けてしまった。その彼らに対して、どうして彼らが救われなかつたか、そして、どのようにすれば救われたかのかを伝えたのがローマ人への手紙です。ダーツをやったことがありますか？私たちの人生はいつもこのようなものです。100打てば当たると100打てた当たらない、的を外しまくって生きています。サウロもそうだったのです。熱心でした。律法を破ったことがない。しかし、何かはずれていたのです。彼らは熱心だったが何かを変えていったのです。

■ ① 認識（知識）の土台

ローマ10：2-11 認識の土台を持っていますか？やる気のある人は世の中に一杯いるのです。いろんな所へ行って頑張りたいのです。でも、うまくいかないのです。空回りが起こるのです。どうして空回りが起こるのか？知識（価値観）がなかったのです。価値観がずれていたのです。だから正義を貫いてしまうのです。怖いことに価値観がずれている人は人に正義を振りかざそうとします。なぜかという、聖書が伝えたい認識は「私たちが間違っている」ということなのです。認識がずれている私たちが自分を守るためにすることは、「自分が正しい」と言うしかないのです。ですから人

の話が聞けません。教会に来てメッセージを聞いても、現実問題として人のせい、会社がと言っている意味がありません。教会は自分の罪を見つけようとする人が来る場所です。自分が正しいという人はあまり来ても意味がありません。教会は自分が正しいと思っていた人が教会に来ることで、「自分にももしかしたらこういう間違いがあったかもしれない。」そして、世の中ではそれで終わってしまいます。教会はそこから違います。そこから教会は、「主に寄り頼め」と言っています。これが不思議なことなんです。ダビデはどうしようもないとき「山に向かって目を上げよ。私の助けはどこから来るのか。」と言ったのです。なぜパウロの人生が変わったのでしょうか？「自分が間違っていた」ことを知ったのです。自分の知識がずれていたことを認識したのです。教会に来るのは、自分の自分が正しいと思っていた思いが変わる場所なんです。知識が間違っていると知り、そして、知識が新しくなると、今度は「知恵」が必要になってきます。これが主の助けなのです。みなさんは、感情をコントロールできないと言われますが、それはしゃべっているからです。感情をコントロールするためには、しゃべるあなたの感情を黙らせないとはいけません。あなたが騒ぐ心の中であなたが「だまれ」というだけです。「聞くこと」を第一としなければいけません。そして、体にも「止まれ」と言わなければいけません。人間関係で失敗するのは「黙れ」と「とまれ」ができないからです。「神様助けてください。」これをやらなければいけません。そうすると神様は「こうしなさい」と教えてくれます。その答えが「知恵」なのです。正しい言葉に耳を傾けて、だから主を待ち望まなければなりません。そうすると自然に力が抜けて的をスバツと射貫けるのです。私たちは霧で何も見えません。だけど見えている人がいるのだから教えてもらったらよいのです。神様は目が見えるようになったところは自分がやりなさい。と言われます。全部やってくれるわけではありません。しかし、方向が見えていない私たちに見えるようにしてくれるのは神様です。みてる人にとって見えているものがどちらなのか教えることは簡単なことなのです。だけど、教えてくれているのに信じない。信じないで間違った方向に行って、頭をぶつけて「なんでこんな目に遭った」と言っているのです。

■ ② 目の前に宝が

聖書が教えているのは、「あなたの中に正しい答えがあります。どうすればよいですか？」と、「主に寄り頼め」とシンプルに言っているのです。「今、悩んでいます。戦っています。腹が立っています。どうすればよいですか？」神様はあなたに上手くいく方法、楽になる方法を伝えたいだけなのです。そして、あなたが難行苦行することをイエス様が引き受けてくれました。もう終わったのです。ですから、私たちは、「自分たちを止まらせること」「山に向かって目を上げよ」と自分に言うだけです。

■ ③ つまづきに注意

ローマ9：30-33 私たちは、小さな石、つまづかなくて良いものにつまづいています。イエス様は小さな石で汚い馬小屋にいられたのです。それが礎石になったのです。私たちの信仰生活もそのようなものなのです。小さなものが集まって大きなことをさせる力にしたのです。なのにあなたは小さなものにつまづこうとしています。あなたがその土台に繋がれば揺るがされることはありません。

まとめ

「神様に向かうとその覆いは取り除かれる。そして、あなたが変える力になるのです。」詩編62：5-8

ダビデが変ってイスラエルの国は変わりました。あなかが変ればあなたの周りも変わります。神様は良いことをしたいのです。あなたの人生を変えたいのです。主に寄り頼めば良いのです。みなさんはどちらを選びますか？「その時、主よ助けてください」と祈りましょう。そうしたら、神様はあなたの人生を変えることができるのです。あなたの人生を変えるのですよ。変わるのです。あなたの目の前の問題があなたを通して解決するのです。あなたの代わりに手を足を失い鞭うたれた人がいるのです。あなたの為命を懸けた人がいます。だから私たちは今、その人に義足を作ってもらって立っています。あなたも確かにつかかたでしょう。あなたも確かに苦しみました。あなたも確かに歩けなかったかもしれません。だけど、彼はあなたが立てるように奇跡を行ってくれたのです。あなたはもう立って。そして、何をせよと言っているのですか？鞭叩いて頑張れと言っているのではありません。ただただ、「私を見なさい」と言っているのです。あなたがもし目を上げれば、あなたの助けは、どうすればよいかは神様が教えてくれます。クリスチャンであることを無駄にしないでください。聞けるチャンスを逃さないでください。信仰は聞くことに始まり、聞くことはイエスキリストによるのだと書いてあります。今日は非聞いてほしいのです。

(要約者:澤口 建樹)

(2月28日)